

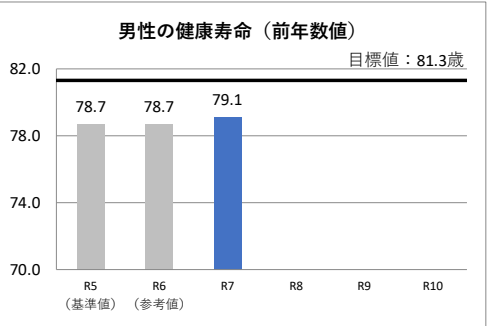
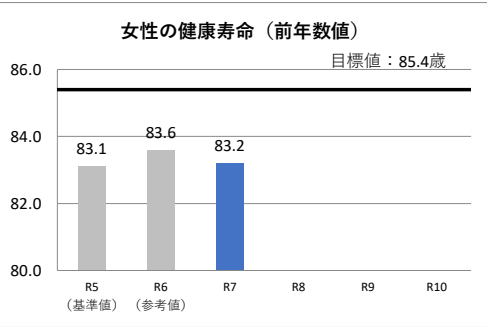
○基本目標 1 地域特性をふまえたまちづくりが進み、安全・安心に暮らせるまち

	指標・K P I	単位	基準年度	基準値	参考値	実績値	目標値	担当課	達成状況の原因分析、説明等
					R 6 年度	R 7 年度	R10年度		
基本目標 指標	校区まちづくり協議会が多様な主体と連携した事業数	本	R 5	21	22	23	26	コミュニティ政策推進課	実績値は目標値に向けて順調に推移しているが、今後も地域住民が多様な主体（市民や地域、企業、NPO等）と協力・連携し、地域課題の解決に向けた活動が実践され満足度が高まっていくよう、課題共有や課題解決のアイデア創出・実践に向けた対話の場を創出し、更なる市民協働と地域自治の推進を図る。 【令和 7 年度の主な取り組み内容】 ①河内木綿の栽培（美園まち協と河内木綿藍染保存会、八尾市観光ボランティアガイドの会、府立農芸高校、四季菜） ②世代間交流（南高安まち協とJA中河内南高安支店） ③AEDの設置・維持（高安西まち協とLAWSON（校区内 2 店舗）） ④健康学習講座（高美南まち協と大阪東部ヤクルト販売㈱） ⑤講師を招いてお話を聞く会（竹洲まち協と佐川急便㈱）
	つなげる支援室で支援調整などを行い終結した割合	%	R 5	76.0	68.9	88.0	80.0	地域共生推進課	事業開始から3年目を迎え、複雑化・複合化した課題を抱えた人や世帯については、「つなげる支援室」がコーディネートして、関係機関で連携して支える仕組みが定着してきた。また、高齢者、障がい者、子どもなどのさまざまな相談窓口のマネジメント力が強化され、それぞれが手を伸ばして重なり合い支援する体制が少しずつ整備されてきたことから、終結率の向上につながっていると考える。今後は、多機関協働でチーム支援した人や世帯が再び社会で孤立することがないよう、地域の居場所へつなぐ等、支援機関と地域関係機関・団体や民間企業等と連携し、地域社会に参加できる機会の充実に取り組むとともに、地域住民相互の交流を行う拠点の拡充等地域づくりをさらに進めていく。
施策 K P I	校区まちづくり交付金制度における加算制度（チャレンジメニュー）の実績件数	件	—	—	—	86	28	コミュニティ政策推進課	実績値は目標を達成しているが、今後も各校区まちづくり協議会による校区まちづくり交付金の加算制度の活用を推進することで、次世代の担い手となる子どもや若者をはじめ多くの人の参加や、地域活動団体の基盤である町会への加入促進、市民活動団体等の多様な主体との連携を促進し、地域特性をふまえたまちづくりの推進を図る。
	地区防災計画策定済み地区数	地区	R 5	3	7	9	28	危機管理課	地域の意向が強く反映される計画であり、取り組み内容の検討や丁寧な作り込みを進めていただいていることから、「策定済み」の段階に至るまで時間のかかる事業である。 R 7 年度は 9 地区が策定済となり、17地区が計画策定に取り組んでいる。今後も計画策定をより推進するため、各地区の危機管理課担当職員を中心に、積極的に地域に働きかけを行う。また地区防災計画作成支援アドバイザーの派遣を進めるとともに、策定済地区については計画に基づく防災訓練を実践し、計画の再評価や見直しを行い、地域の防災力が向上するよう取組みを支援する。
	地区防災計画策定等支援にかかる職員の支援地区数	地区	R 5	22	28	28	28	危機管理課	全28小学校区に対して地区防災計画策定等の支援を実施し、未策定地区に対しては計画策定の働きかけを積極的に行い、策定済地区に対しては計画に基づく防災訓練や計画の再評価等を行った。引き続き、地域の防災力が向上するよう取組みを支援する。
	大阪重点犯罪認知件数	件	R 5	357	251	279	294	危機管理課	大阪重点犯罪認知件数については前年に比べ28件増加している。 各項目においては、車上ねらいは前年から45件の減少（前年比約0.59倍）となったものの、その他の項目については増加している。 特に、特殊詐欺については、府全体において大きく増加しており、八尾市においても前年から48件増加するなど、大阪重点犯罪認知件数を押し上げる要因となっている。 地域での防犯教室や啓発チラシの配布等、今後も引続き、関係団体と連携しながら継続した高齢者等への注意喚起及び啓発の取組みを実施していく。
	避難行動要支援者名簿「同意リスト」を提供した小学校区数	地区	R 5	15	15	15	28	高齢介護課	避難行動要支援者名簿「同意リスト」および避難行動要支援者自身が記入する「わたしの避難計画」について、その趣旨をご理解いただき、対象者の把握や防災訓練への活用、土砂災害警戒区域に居住する重度の避難行動要支援者に対する福祉事業者の協力等の体制を強化できるよう、引き続き同意者リスト提供の小学校区数の増加を見込んでいく。

●令和 7 年度実績のまとめ

基本目標指標	「校区まちづくり協議会が多様な主体と連携した事業数」はR5 年度基準値を上回った。「つなげる支援室で支援調整などを行い終結した割合」はR5 年度基準値及び目標値を上回った。
施策KPI	「校区まちづくり交付金制度における加算制度（チャレンジメニュー）の実績件数」は目標値を上回った。「地区防災計画策定済み地区数」はR5 年度基準値より増加した。「地区防災計画策定等支援にかかる職員の支援地区数」はR5 年度基準値より増加し、目標値を達成した。件数の減少をめざすKPIである「大阪重点犯罪認知件数」はR5 年度基準値より減少し、目標値を達成した。「避難行動要支援者名簿「同意リスト」を提供した小学校区数」はR5 年度基準値と同じであった。
取り組み実績	施策KPI「地区防災計画策定済み地区数」は、住民が主体となって組織的に、かつ、地域ごとの特性に応じて災害に備えるために地区防災計画を策定した小学校区数をカウントする指標。本施策KPIに係る取り組みとして、計画策定をより推進するため、各地区の危機管理課担当職員を中心に積極的に地域に働きかけを行い、R 7 年度は 9 地区が策定済となった。 施策KPI「避難行動要支援者名簿「同意リスト」を提供した小学校区数」は、市が災害時に高齢者や障がい者等自力での避難が難しいと思われる人の名簿（避難行動要支援者名簿）を作成し、災害時に取り残されないような体制づくりに取り組むために名簿の情報共有を行った校区まちづくり協議会数をカウントする指標。本施策KPIに係る取り組みとして、その趣旨をご理解いただき、対象者の把握や防災訓練への活用、土砂災害警戒区域に居住する重度の避難行動要支援者に対する福祉事業者の協力等の体制を強化できるよう努めた。

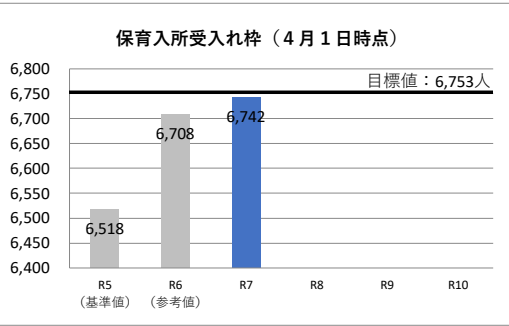
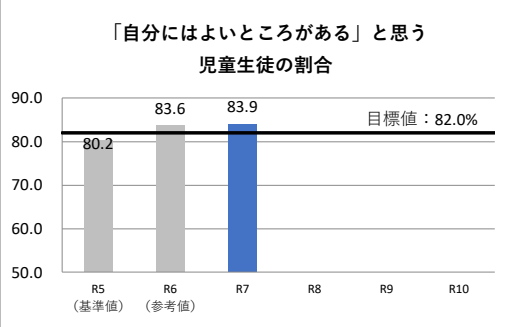
○基本目標２ みんなの健康をみんなで守る健康づくりのまち

	指標・K P I	単位	基準年度	基準値	参考値	実績値	目標値	担当課	達成状況の原因分析、説明等
					R 6 年度	R 7 年度	R10年度		
基本目標 指標	男性の健康寿命（前年数値）	歳	R 5	78.7	78.7 （暫定値）	79.1 （暫定値）	81.3	保健企画課	健康寿命について、基準値より増加している。今後も、健康寿命の延伸に向けて更なる健康づくりの推進を図る必要がある。なお、健康寿命に関しては様々な要因が重なって影響を及ぼすことから、要因を特定することは非常に困難である。 
	女性の健康寿命（前年数値）	歳	R 5	83.1	83.6 （暫定値）	83.2 （暫定値）	85.4	保健企画課	健康寿命については基準値より微増はしているものの前年度よりは、減少している。今後も、健康寿命の延伸に向けて更なる健康づくりの推進を図る必要がある。なお、健康寿命に関しては様々な要因が重なって影響を及ぼすことから、要因を特定することは非常に困難である。 
施策 K P I	健康のために運動などを心がける市民の割合	%	R 5	50.8	51.6	52.0	65.0	保健企画課	健康のために運動を心がける市民の割合は、基準値より増加している。今後も引き続き、関係課、地域のコミュニティ、医療機関及び関係機関・企業並びに大学・研究機関との連携、協力のもと、市民が運動をはじめとする健康づくりに主体的に取り組み、地域全体で支えていくことができるよう環境整備を推進する。
	国民健康保険加入者における特定健康診査受診率【※出納閉鎖時点】	%	R 5	33.5	34.2	34.6	47.0	健康保険課	様々な受診勧奨を実施し、基準値および前年度実績を上回ったが、目標値には届いていない。今後も受診勧奨や啓発における創意工夫を検討するとともに、関係機関との連携を図りながら、より効果的な周知方法の検討を進め、受診率の向上に努める。
	「かかりつけ医」を持っている市民の割合	%	R 5	77.6	79.4	76.4	80.0	保健企画課	昨年度と比較し、実績値は減少しており、基準値を下回る結果となった。令和８年１月から医療機関のかかりつけ医機能報告制度が開始されたことに伴い、医療情報提供サイトにおいて、これまで提供していた情報に加え、かかりつけ医機能についても検索が可能となったことから、目標値の達成に向けてさらなる周知を図る必要がある。

●令和 7 年度実績のまとめ

基本目標指標	「男性の健康寿命（前年数値）」、「女性の健康寿命（前年数値）」ともR 5 年度基準値を上回った。
施策KPI	「健康のために運動などを心がける市民の割合」、「国民健康保険加入者における特定健康診査受診率【※出納閉鎖時点】」はR 5 年度基準値を上回った。「「かかりつけ医」を持っている市民の割合」はR 5 年度基準値を下回った。
取り組み実績	施策KPI「健康のために運動などを心がける市民の割合」は、毎年実施している市民意識調査での「あなたは、健康のために運動を心がけるなど、自主的に何か取り組みをしていますか。」との問いに対して、「している」と回答した人の割合。本施策KPIに係る取り組みとして、関係課と連携し、市民の主体的な健康づくりの取り組みの支援及び地域における健康づくりの推進に取り組んだ。 施策KPI「国民健康保険加入者における特定健康診査受診率【※出納閉鎖時点】」は、国民健康保険加入者に対して生活習慣病予防を目的にメタボリックシンドロームの状態にあるかを検査する特定健康診査の受診率。本施策KPIに係る取り組みとして、受診勧奨や啓発における創意工夫を検討するとともに、関係機関との連携を図りながら、より効果的な周知方法の検討を進め、受診率の向上に努めた。

○基本目標3 若い世代が自分の将来を見つめ学び、ライフプランが実現できるまち

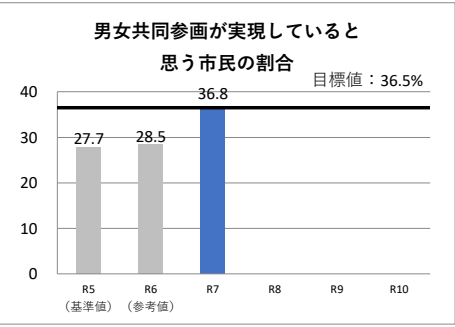
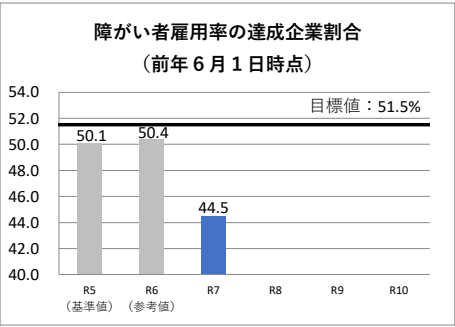
	指標・K P I	単位	基準年度	基準値	参考値	実績値	目標値	担当課	達成状況の原因分析、説明等
					R 6 年度	R 7 年度	R10年度		
基本目標指標	保育入所受入れ枠（4月1日時点）	人	R 5	6,518	6,708	6,742	6,753	保育・こども園課	R10目標値の達成に向けて順調に推移（増加）している。 保育入所受入れ枠（4月1日時点） 
	「自分にはよいところがある」と思う児童生徒の割合	%	R 5	80.2	83.6	83.9	82.0	学校教育推進課	各学校における発達段階に応じた体系的・系統的な道徳教育、年間指導計画を基にした体験活動や地域との交流といったキャリア教育、またゲストティーチャーの活用や命を育む教育のほか、児童会・生徒会活動などの児童生徒の主体的な活動を通した、集団としての規範意識・個々の協働意識の向上や、自己肯定感・自己有用感などを高める取り組みの成果により、目標値を達成している。 「自分にはよいところがある」と思う児童生徒の割合 
施策K P I	子ども・子育てに関する総合相談件数	件	R 5	15,216	16,014	15,122	16,500	こども・いじめ何でも相談課	近年、子育てをとりまく環境や保護者の悩みが多様化傾向にある中、子どもや子育てに関する総合相談窓口である「こども総合支援センターほっぷ」について継続して広報を展開した結果、気軽に子育て相談ができる窓口として認知されてきている。前年より相談件数は下回っているが、目標値に近い成果を収めており、引き続き相談しやすい体制づくりにより相談窓口としての周知を図っていく。
	1歳6か月児健康診査の受診率	%	R 5	96.5	96.7	97.0	100	こども健康課	健診受診を促す個別通知、健診未受診者に対する積極的な受診勧奨により、受診率は向上したが、目標値には未到達である。今後も勧奨内容の工夫などにより、受診率向上を図る。また、健診未受診者は全数把握に努めている。
	市内で働く保育士・保育教諭数（4月1日時点）	人	R 5	1,684	1,731	1,808	1,725	保育・こども園課	宿舍借り上げ支援事業や八尾市保育士確保事業費補助金などの保育士確保に係る施策を実施した結果、目標値を上回る実績となった。
	障がい児保育（保育サポート枠）の保育施設入所児童数（4月1日時点）	人	R 5	222	256	271	260	保育・こども園課	各園協議の中で保育サポート枠の確保はできている。引き続き各園協議において保育サポート枠の確保に努めると同時に保護者への利用案内を進める。
	「学校に行くのは楽しい」と思う児童生徒の割合	%	R 5	83.4	84.0	84.4	85.4	教育センター	中学校区での交流で校種間、異学年の児童生徒と協力して学ぶ取り組み等を進めたことで、児童生徒の共感力、協調性を高めることに繋がり「学校に行くのは楽しい」と思う児童生徒の割合が増加した。
	子ども・若者の健全育成に係る事業数	件	R 5	254	267	260	352	生涯学習課	八尾市青少年育成連絡協議会主催の八尾市こども会親善つな引き大会や八尾市こども会連合親善ソフトボール大会などの青少年健全育成を支援する事業を引き続き実施し、各地区においても、こども会の活性化を図るため、青少年を対象に様々な体験活動を実施されたが、一部の地域において、担い手不足や参加者の減少により、事業の縮小や統合が図られたため、全体の事業数が昨年度と比較して微減となった。
	定住を目的とした住宅の新築・購入・リフォーム等への支援数【累積】	件	R 5	650	712	766	1,025	住宅政策課	木造住宅耐震改修補助制度を活用し、12人が住宅の耐震化を行った。また、中古住宅流通促進補助を活用し2人、中古住宅マイホーム取得補助を活用し26人、同居支援補助を活用し4人が住宅を取得・リフォームを行った。さらに空家の相続など空家の管理・活用方法に関するセミナーを実施し、10人の参加者があった。令和7年度は合計54人に対して支援を実施した。

●令和7年度実績のまとめ

基本目標指標	「保育入所受入れ枠（4月1日時点）」はR5年度基準値を上回った。「自分にはよいところがある」と思う児童生徒の割合」はR5年度基準値及び目標値を上回った。
施策KPI	「子ども・子育てに関する総合相談件数」以外はR5年度基準値を上回った。そのうち「市内で働く保育士・保育教諭数（4月1日時点）」「障がい児保育（保育サポート枠）の保育施設入所児童数（4月1日時点）」は目標値も上回った。
取り組み実績	施策KPI「市内で働く保育士・保育教諭数（4月1日時点）」は、当該年度の4月1日現在、市内の認可施設において勤務する保育士・保育教諭数をカウントする指標。本施策KPIに係る取り組みとして、宿舍借り上げ支援事業や八尾市保育士確保事業費補助金などの保育士確保に係る施策を実施した結果、目標値を上回る実績となった。 施策KPI「障がい児保育（保育サポート枠）の保育施設入所児童数（4月1日時点）」は、認可施設の入所児童のうち、障がい児保育（保育サポート）を受ける児童数をカウントする指標。本施策KPIに係る取り組みとして、各園協議において保育サポート枠の確保に努めると同時に保護者への利用案内を進めた。

○基本目標 4 誰もが自分の持つ能力や経験を活かし、地域や職場で活躍できるまち

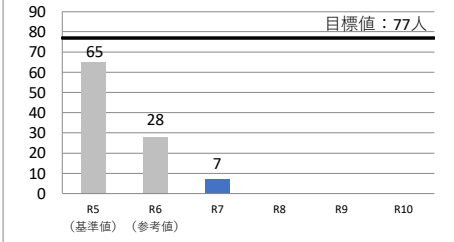
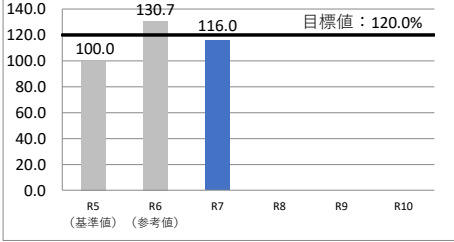
	指標・K P I	単位	基準年度	基準値	参考値	実績値	目標値	担当課	達成状況の原因分析、説明等
					R 6 年度	R 7 年度	R10年度		
基本目標 指標	障がい者雇用率の達成企業割合 （前年 6 月 1 日時点）	%	R 5	50.1	50.4	44.5	51.5	障がい福祉課	「障がい者雇用を考える集い」等の開催を通じて、企業への啓発や就労支援の取り組みを継続して実施したが、法定雇用率の段階的な引き上げに伴い、企業が達成すべき目標値そのものが高まったことなどもあり、令和 7 年度の実績値は44.5％と、前年度（50.4％）および基準値を下回る結果となった。 今後も引き続き、企業が主体となって実施するセミナーやイベントなどを通じ、障がい者雇用の裾野を広げるとともに、関係機関と連携した取り組みを進めていく。
	男女共同参画が実現していると思う市民の割合	%	R 5	27.7	28.5	36.8	36.5	人権政策課	啓発施策や多様な働き方の浸透が要因となり実績値は前年を大きく上回り目標値に到達した。
施策 K P I	認知症サポーター数	人	R 5	17,702	18,713	20,054	22,600	高齢介護課	出前講座以外にも受講希望者に向け、毎月定期的に認知症サポーター養成講座を開催しているため、順調に認知症サポーター数を伸ばしている。
	外国人相談窓口における相談件数	件	R 5	2,192	2,192	2,037	2,200	人権政策課	外国人市民は増加傾向にあり、相談件数として依然として高い水準にあるが、病院など一部の施設では多言語対応が進んでおり、相談件数は昨年度に比べて減少した。本市における外国人の居住状況やこれまでの相談対応の実績をふまえて、外国人市民にとって、より利便性の高い相談窓口となるよう、取り組みを進めていく。
	市の審議会、委員会などにおける女性委員の登用の割合（年度末時点）	%	R 5	35.5	34.9	32.8	41.5	人権政策課	令和7年度に実施したポジティブアクションに関するアンケート調査（対象：令和 7 年 3 月 31 日時点において女性委員比率40%未満の審議会所管課）によると、多くの委員は専門的知識や役職に基づき選出されており、同一人物の再任や充て職で構成されているため、女性の新規登用が難しいという現状や、特定の専門分野に女性の専門家が少ないことも女性比率向上の大きな障壁となっている可能性が高いこと、また、複数自治体が共同で委嘱する仕組みや設置要綱の変更困難さも、柔軟な女性登用を妨げていると考えられる。対策として、例えば、委員選定の際は、肩書きや職種にこだわることなく、広く人材を求めるよう努めることなどが必要である。
	生涯学習施設で実施する講座等の参加者数	人	R 5	43,649	44,725	40,557	50,000	生涯学習課	生涯学習センターを基幹として、市民ニーズを踏まえた講座を実施するとともに、市内10館のコミュニティセンターと連携した定期講座等を実施し、市民の学習機会を提供することができたが、受講者数については減少した。生涯学習センターについては複合施設であることを踏まえるなど、今後は、各施設の特性を活かしながら、高度情報化、グローバル化の進展に伴う価値観やライフスタイルの多様化、また、人生100年時代を見据え、市民一人ひとりが生涯を通して学ぶことのできる環境の整備、学び直しなどの多様な学習機会の提供への対応が必要である。



●令和 7 年度実績のまとめ

基本目標指標	「男女共同参画が実現していると思う市民の割合」はR 5 年度基準値及び目標値を上回った。「障がい者雇用率の達成企業割合（前年 6 月 1 日時点）」はR 5 年度基準値を下回った。
施策KPI	「認知症サポーター数」はR 5 年度基準値及び目標値を上回った。「外国人相談窓口における相談件数」、「市の審議会、委員会などにおける女性委員の登用の割合（年度末時点）」、「生涯学習施設で実施する講座等の参加者数」はR 5 年度基準値を下回った。
取り組み実績	施策KPI「認知症サポーター数」は、認知症サポーター累計人数をカウントする指標。本施策KPIに係る取り組みとして、出前講座以外にも受講希望者に向け、毎月定期的に認知サポーター養成講座を開催しているため、順調に認知サポーター数を伸ばしている。

○基本目標 5 経済成長を推進する、未来志向の産業振興をめざすまち

	指標・K P I	単位	基準年度	基準値	参考値	実績値	目標値	担当課	達成状況の原因分析、説明等														
					R 6 年度	R 7 年度	R10年度																
基本目標 指標	立地制度活用による雇用人数	人	R 5	65	28	7	77	産業政策課	一般財団法人日本立地センターが実施した「2025年度新規事業所立地計画に関する動向調査結果」においては、「先行きの不透明感があったことや、産業用地の不足、高騰する建築費によって、立地計画を躊躇したとも考えられる。」とされている。本市においても同様の状況にあると見受けられ、工業立地件数が少なくなったことに加え、一件あたりの雇用人数が少なかったため、基準値を下回ったと考えられる。 立地制度活用による雇用人数 <table><tr><th>年度</th><th>雇用人数</th></tr><tr><td>R5 (基準値)</td><td>65</td></tr><tr><td>R6 (参考値)</td><td>28</td></tr><tr><td>R7</td><td>7</td></tr><tr><td>R8</td><td></td></tr><tr><td>R9</td><td></td></tr><tr><td>R10</td><td></td></tr></table>	年度	雇用人数	R5 (基準値)	65	R6 (参考値)	28	R7	7	R8		R9		R10	
	年度	雇用人数																					
R5 (基準値)	65																						
R6 (参考値)	28																						
R7	7																						
R8																							
R9																							
R10																							
	産業分野にかかわる関係人口の対基準年度比率	%	R 5	100.0	130.7	116.0	120.0	産業政策課	2 0 2 5 年大阪・関西万博開催を契機とした関連企画が市内でも多数実施された結果、「みせるばやお」の来場者数及び、市内商店街のイベント数の増加につながったことで、基準値を上回ることができた。 産業分野にかかわる関係人口の対基準年度比率 <table><tr><th>年度</th><th>対基準年度比率</th></tr><tr><td>R5 (基準値)</td><td>100.0</td></tr><tr><td>R6 (参考値)</td><td>130.7</td></tr><tr><td>R7</td><td>116.0</td></tr><tr><td>R8</td><td></td></tr><tr><td>R9</td><td></td></tr><tr><td>R10</td><td></td></tr></table>	年度	対基準年度比率	R5 (基準値)	100.0	R6 (参考値)	130.7	R7	116.0	R8		R9		R10	
年度	対基準年度比率																						
R5 (基準値)	100.0																						
R6 (参考値)	130.7																						
R7	116.0																						
R8																							
R9																							
R10																							
施策 K P I	地域就労支援センターにおける相談者の雇用達成の割合	%	R 5	30.2	28.2	31.2	35.0	労働支援課	令和7年度においては、障がい者に対する就労件数が堅調に推移したため、雇用達成率は前年度比で増加となった。一方で、障がい者以外の属性では前年度を下回る結果であったため、引き続き相談者の就労実現に結びつくよう、きめ細かな職業紹介・就労相談を行うことで、さらなる雇用達成率の増加をめざす。														
	中小企業におけるイノベーション実践数	事業	R 5	124	63	49	63	産業政策課	前年度に拡大実施していた「意欲ある事業者経営・技術支援補助金」の規模を縮小したため、イノベーション実践数が前年度を下回った。														
	八尾市立中小企業サポートセンター相談件数	件	R 5	1,207	1,134	1,485	1,248	産業政策課	新規利用者数を増加させるための取組として、企業訪問を強化したことで、相談件数増加に繋がった。														
	次世代企業家育成において市内企業がメンター役を担う割合	%	R 5	53.6	59.3	50.0	50.0	産業政策課	創業支援事業を中心に市内事業者に積極的に参画していただき、目標を達成できた。														
	創業支援対象者のうち創業者数	者	R 5	184	196	163	163	産業政策課	前年度に比べて実績が低下することとなったが、引き続き商工会議所や市内金融機関等との連携を図り、目標を達成できた。														

●令和7年度実績のまとめ

基本目標指標	「産業分野にかかわる関係人口の対基準年度比率」はR5年度基準値を上回った。「立地制度活用による雇用人数」はR5年度基準値を下回った。
施策KPI	「地域就労支援センターにおける相談者の雇用達成の割合」はR5年度基準値を上回った。「八尾市立中小企業サポートセンター相談件数」はR5年度基準値及び目標値を上回った。それ以外の施策KPIはR5年度基準値を下回った。
取り組み実績	施策K P I「地域就労支援センターにおける相談者の雇用達成の割合」は、相談者の中で就職が実現した人の割合をカウントする指標。本施策KPIに係る取り組みとして、令和7年度においては、障がい者に対する就労件数が堅調に推移したため、雇用達成率は前年度比で増加となった。 施策K P I「八尾市立中小企業サポートセンター相談件数」は、八尾市内の中小企業者が、技術課題や経営課題の解決を目的として、八尾市立中小企業サポートセンターへ相談した件数をカウントする指標。本施策KPIに係る取り組みとして、新規利用者数を増加させるため、企業訪問を強化したことで、相談件数増加に繋がった。

○基本目標 6 行ってみたい、関わってみたい、住みつづけたい、魅力があふれるまち

	指標・K P I	単位	基準年度	基準値	参考値	実績値	目標値	担当課	達成状況の原因分析、説明等																		
					R 6 年度	R 7 年度	R10年度																				
基本目標 指標	若者世代の社会動態	人	R 5	-89	-217	-112	0	政策推進課	R 5 年度基準値を下回った。0 をめざすKPIである。年代別に見ると20代の社会動態は-249人（R 5 年度：-219人、R6年度：-300人）、30代の社会動態は137人（R 5 年度：130人、R6年度：83人）となっている。30代については増減の変動はありつつ継続して転入超過の状態が改善がみられるものの、20代については継続して転出超過の状態が R 5 年度よりも拡大している。 若者世代の社会動態 目標値：0人 <table><tr><td>0</td></tr><tr><td>-50</td></tr><tr><td>-100</td></tr><tr><td>-150</td></tr><tr><td>-200</td></tr><tr><td>-250</td></tr><tr><td>R5 (基準値)</td><td>R6 (参考値)</td><td>R7</td><td>R8</td><td>R9</td><td>R10</td></tr><tr><td>-89</td><td>-217</td><td>-112</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	0	-50	-100	-150	-200	-250	R5 (基準値)	R6 (参考値)	R7	R8	R9	R10	-89	-217	-112			
										0																	
-50																											
-100																											
-150																											
-200																											
-250																											
R5 (基準値)	R6 (参考値)	R7	R8	R9	R10																						
-89	-217	-112																									
施策 K P I	適切な土地利用が図られ、暮らしやすいまちになったと感じる市民の割合	%	R 5	36.5	38.3	37.8	40.0	都市政策課	指標は、R7年度市民意識調査の設問、問26エ「都市部ではそれぞれの地域特性に応じた住宅、工場、商店が立地し、郊外部では市街化が抑制され、自然環境の保全が図られていると思いますか」を活用している。実績値は「思う」「少し思う」の合計が37.8%となり昨年度に比べると減少傾向であるが「思う」という明確な好意的意見が昨年度6.5%から7.5%に増加した。一方で、「あまり思わない」「思わない」という否定的な意見は昨年度35.5%から合計35.4%と微減し、「わからない」「無回答」について昨年度26.2%から26.9%に微増した。引き続き令和10年の目標に向けて都市計画手法を活用した魅力ある都市づくりを推進し、地域特性に応じた適切な土地利用を図っていく必要がある。																		
	都市計画道路の整備率	%	R 5	55.9	56.2	56.4	57.2	都市基盤整備課	都市計画道路 J R 八尾駅前線や、久宝寺線の整備を実施した。																		
	観光ウェブサイトアクセス数	回	—	—	23,600	26,120	12,000	観光・文化財課	前年度比10%増加となった要因として、観光コンテンツの体験会募集ページに「やったらおもしろい八尾ウェブサイト」のリンクをつけたことやイベント開催時にグッズを配布してサイトを閲覧してもらったことが増加につながったと考えられる。																		
	Instagramフォロワー数	人	R 5	2,309	2,416	2,417	4,200	やおプロモーション推進プロジェクト	投稿は機会毎に行い、一定の閲覧はあり、八尾の魅力発信やPRにはつながったと考える。しかしながら、フォロワー数は目標を下回った。原因としてはイベント等の情報発信の機会においてホームページや市政だよりでの情報発信に重きをおき、SNSでの情報発信及びフォロワー数の増加に向けた取り組みが不足していたことが考えられる。令和8年度は、アフター万博として万博に参画した市民や団体も巻き込み、ハッシュタグ等を活用した横展開や登録を促す取り組みを行い、フォロワー数の増加をめざす。																		
	八尾市において身近な場所で、芸術文化に触れることができると感じる市民の割合	%	—	—	—	86.5	66.0	文化・スポーツ振興課	高校合同文化祭、まちかどライブクリエイションの来場者を対象にアンケートを実施した。指標設定時には指標内容を計るアンケート項目等がなく、市民意識調査の「日常生活において音楽、映画、演劇、美術などの芸術文化に親しんで心の豊かさを感じる時がある市民の割合」の60.2%（R5実績値）を参考に新たに目標値を設定した。令和7年度の評価を行うにあたり、上記来場者に対してアンケートを実施しており、興味・関心の比較的高い人へのアンケートとなったことから、実績値が高くなっていると考えられる。																		

●令和7年度実績のまとめ

基本目標指標	増加を目指し、R10年度に0を目標とする「若者世代の社会動態」はR5年度基準値を下回った。年代別に見ると20代の社会動態は-249人（R5年度 -219人）、30代の社会動態は137人（R5年度 130人）となっている。
施策KPI	「適切な土地利用が図られ、暮らしやすいまちになったと感じる市民の割合」、「都市計画道路の整備率」、「Instagramフォロワー数」はR5年度基準値を上回った。「観光ウェブサイトアクセス数」、「八尾市において身近な場所で、芸術文化に触れることができると感じる市民の割合」は目標値を上回った。
取り組み実績	施策KPI「Instagramフォロワー数」は、Instagramの八尾市公式アカウントにおけるフォロワー数をカウントする指標。前年度からは微増に留まってしまっているが、R5年度基準値と比較すると108人の増加となっている。投稿は機会毎に行い、一定の閲覧はあり、八尾の魅力発信やPRにはつながった。